

今月の相談事例（3月号）

顧問先社長 経営幹部各位

〒428-0004 静岡県島田市横岡 640-2
三浦労務経営事務所
社会保険労務士 三浦 茂
TEL 0547-45-5811/FAX 0547-45-5821
URL <http://masterslink.jp/sr/miura/>

【相談】

当社は、建築業で労災のリスクがもともと高い業種なのですが、数年前までは労災はほとんど起きていませんでした。

ところが、ここ数年、毎年2～3件の労災が発生するようになりました。高くない脚立から落ちたり、材料を取ろうとして崩れた材料で足の甲が下敷きになったりしています。大きな事故に至っていないのが幸いです。恐らく高齢化が進んでいることによる運動能力の低下が要因だと思っています。

何か、対策を講じた方が良いでしょうでしょうか？

【アドバイス】

向老者の心身機能の低下は、本人の意識以上に進んでいるのが現実です。顕著な低下のあるものは次のとおりです。

20～24歳ないし最高期の時を基準（100）として、55～59歳の方を相対比較しますと。

<感覚機能と平衡機能>

皮膚振動覚	: 35	薄明順応	: 36	聴力	: 44
平衡機能	: 48	視力	: 63		

<抗菌および快復力>

夜勤後体重回復	: 27	抗病回復力	: 68
---------	------	-------	------

<精神機能と知能要素>

記憶力	: 53	学習能力	: 59	比較弁別能力	: 63
計算能力	: 76	分析と判断力	: 77		

<その他>

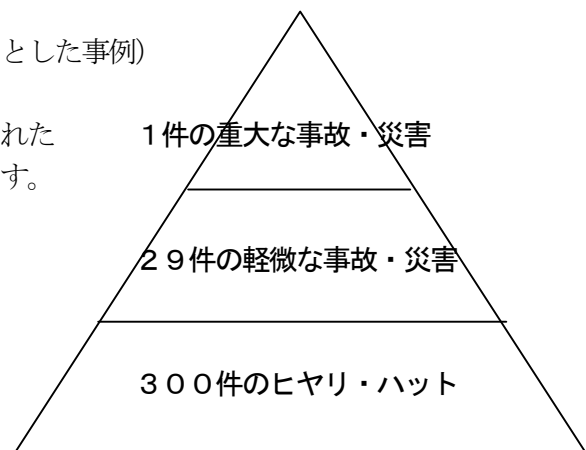
字を書く早さ	: 57	運動調節能力	: 59	伸脚力	: 63
--------	------	--------	------	-----	------

次に、1件の大きな事故や災害の裏には、29件の軽微な事故や災害があり、そして300件のヒヤリ・ハット

（事故には至らなかったもののヒヤリとした、ハットとした事例）
があるとされます。[ハインリッヒの法則]

重大災害の防止のためには、事故や災害が予測されたヒヤリ・ハットの段階で対処していく必要があります。

そのためには、危険予知訓練やリスクアセスメントに基づくリスク低減措置が有効です。



（この著作権は三浦労務経営事務所に帰属する）